

外科医が取り組む 薬局改革

～在宅療養支援薬局研究会活動レポート～(24)

◆狭間研至

昭和44年大阪生まれ。平成7年大阪大学医学部卒業後、同付属病院、大阪府立病院(現大阪府立急性期総合医療センター)などを経て、12年大阪大学大学院医学系研究科臓器制御外科(博士課程)に入学し、16年同課程修了。医師・医学博士・外科専門医・呼吸器外科専門医。15年4月から「ハザマ薬局」を運営するファルメディコ(株)代表取締役に就任し、実家の薬局経営を受け継ぎ形で医師の立場からの意欲的な薬局経営に乗り出すとともに、20年4月には有限中間責任法人「薬剤師あゆみの会」理事長も務めるなど多方面で精力的に活躍中。



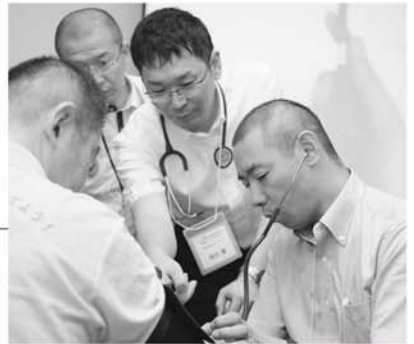
はじめに

みなさん、こんにちは。ンポジウムの模様をお伝え狭間研至です。前回に引

3つのテーマで分科会を開催

前日の熱気も冷めやらぬなか、2日目は午前8時半から3会場に分かれて2つのワークショップとシンポジウムを開催しました。朝早い時間帯でしたが、どの会場も満員で参加者の熱意があふれていたのが印象的でした。

ワークショップIでも多く、受講者はたくさんメモをとり真剣に話を聞きながら楽しく手技を行っていました。最後には福田先生が「薬剤師の本気」として熱い想いを語り、会場全体の気持ちが一変となり、非常に実りある会となりました。



ワークショップやシンポジウムなどが行われバラエティに富んだ分科会に



シンポジウムIでは、「薬剤師の職能と法的意図」をテーマに、弁護士も参加した。田原先生、厚生先生に座長をお願いし、働省医薬食品局の中井清

ランチオンセミナー

3つの会場それぞれ病院診療協力部長の買勢充実した時間を過ごした。参加者は、再びメイン会場に集まりました。冒頭は医療法人久仁会鳴門山上

シンポジウムII

そして最後のセッションは、私が座長を務めさせていただきます。最初は兵庫医療大学学長の松田暉先生に「6年制教育の目標と課題」というテーマでお話させていただきます。続いて、神戸大学医学部附属病院薬剤師部長の平井みどり教授に「薬学6年制と薬業連携」というテーマでお話させていただきます。

実践的かつ専門的な講演で参加者の心を熱く

人先生、千葉大学名誉教授の山崎幹夫先生に私という4名のシンポジストによる発表と討論が行われました。

それぞれの立場ならではの講演が満載の盛りだくさんのお話でしたが、田原先生の名司会が会場からの質問もたくさんあり、充実したシンポジウムでした。なお、この模様は本シンポジウムを協賛していただいた第一三共エスファ株式会社



シンポジウムでは積極的に質問をする参加者も多く活発な質疑応答が行われた

社ウェブサイト「薬剤師お役立ち情報」から動画コンテンツとして配信されますので、是非こちらもご覧下さい。

病院と薬局それぞれに患者さんへのケアが重要で、臨床教育、人事交流、薬物治療における知識の拡充などをキーワードに、コミュニケーションの重要性も含めたお話を、いつもながらの軽妙な語り口で語っていただきました。さらに今回、大活躍をいたしました菅野強先生にお話しいただきました。当初は6年制に懐疑的な気持ちもあったというのですが、実際に若い薬剤師さんとの交流を持たれるにつれ、それが大きな期待につながっていった経験を披露されました。また、6年制教育の最大の目標は「臨床薬学と基礎薬学の止揚」であり、新しい「実践患者学」を確立する時期が来ていると熱くお話しくださいました。そして前日に引き続き、川添哲嗣先生にも再

おわりに

最後に私の方から、大志と野望ということをやさしくお話しさせていただきます。来年は7月14日(日)15日(祝・月)の2日間、「共同薬物治療管理の実践」をテーマに大阪

2日間にわたるシンポジウム盛況の内に閉幕

がっふり四つに組んで共にご参加頂きたいと思っております。詳細は本会HPをご覧ください。